

自治体・企業の防災担当者のための

# 防災

Disaster Risk  
Reduction Handbook

## ハンドブック

# 2018年度

## 保存版

南海トラフ巨大地震に自治体はどう備える

日刊工業新聞社

自治体・企業の  
防災対策

## 緊急災害用シャワー

## 被災地で大活躍！組立式温水シャワー（コイン式）

株式会社タニモトは、1975年設立（1966年創業）。日本で最初にコインシャワーを考案した会社です。それから7年後の1982年頃、海水浴に來られた病院の院長から入院患者向けに採用され、夏場だけでなくオールシーズン使える全自動コイン式温水シャワーの開発が始まりました。（実用新案特許）現在の簡易組立式温水シャワー『ENCOURAGE』（エンカレッジ）もこれらの経験・実績の集積から誕生しました。

## あらゆる用途で大活躍

その後、学生寮や風呂の無いアパート、オートキャンプ場、自治体の体育館やグラウンド、高速道路のサービスエリア、トラックターミナルなどに採用されました。1991年には茨城県庁原子力安全対策課から放射能除染用シャワーの開発依頼を請け、1997年には総務省消防庁から生物化学兵器・除染用シャワー給湯器の開発を請けました。

## コンセプトに基づき、ノウハウを活かした3つのメリット

『ENCOURAGE』の開発は、1995年の阪神淡路大震災がきっかけです。この時、「ログハウス型シャワー」1棟を神戸市に寄贈しました。しかし、この時にトラックでの搬送を試み、道路・建物の崩壊で現地納入に多大な時間がかかったことが、その後の改良に大いに役立っています。そこで、改めて開発コンセプトを「大人4人で運べる重量」「コイン式

シャワー」「避難所に備蓄が可能なサイズ」「ビスや工具も不要で組み立て簡単」の4点としました。組立式なのでパーツごとに分解すれば、女性でも運べ備蓄時は使用時の3分の1サイズになるので、6畳間程度のスペースで8室分のシャワー室が備蓄可能です。この大きさであれば、階段でも容易に運べ、備蓄場所の間口が小さくても大丈夫です。また、コイン式シャワーにこだわったのは、これまでのノウハウから3つのメリットがあると判断したためです。3つのメリットとは、①配布コイン量で「利用回数」を管理できる②タイマー制御で使用時間を管理しやすい③お金ではなく専用のコインを使用するため、管理・配布のハードルが低いからです。つまり、残水・燃料・人手など現場の状況に応じて、皆が平等に入浴できるよう調整できるツールが「コインタイマー式」なのです。

## 全自動コイン式温水シャワーと風呂設備との比較

日本は風呂文化でもあり、風呂の良さは沢山ありますが、不特定多数が利用する大浴場は、「衛生管理」「設備管理」などにノウハウや専門の管理者が必要です。緊急時や災害時に「入浴設備」



1995年阪神淡路大震災



2004年新潟中越地震